

クリーンOAフロア TN-100 施工要領書



【目次】

クリーン OA フロア TN-100 は、アンダーシートを敷設後、樹脂製フロアベースを敷き並べるだけで施工を完了できるリニューアル工事に最適な置敷タイプの OA フロアです。

この施工要領書は、快適な OA フロアを維持するにあたり、守って頂きたいこと、実施して頂きたいことをまとめたものです。

1.クリーン OA フロア TN-100 の構成と仕様

1-1 部材構成……P2

1-2 配線の取り出し方法……P3

2.材料

2-1 部材……P4

2-2 オプション部材……P4

3.施工手順

3-1 施工前の準備と確認……P5

3-2 割り付け……P5

3-3 フレックスシート Z の敷設……P6

3-3-1 クリーン OA フロア用スプレー接着剤を使用して敷設を行う場合……P6

3-3-2 市販の片面粘着テープを使用して敷設を行う場合……P6

3-4 フロアベースの敷設……P6

3-5 壁際部フロアベースの切断加工……P7

3-6 壁際部フロアベースの敷設……P7、8

3-7 フロアベースのがたつき防止対策……P9

3-8 アルミ見切の取り付け……P9

3-9 スロープベースの取り付け……P10

3-10 自主検査……P11

3-11 仕上げ材の施工……P11

4.重量機器の搬入要領

重量機器の搬入要領……P11

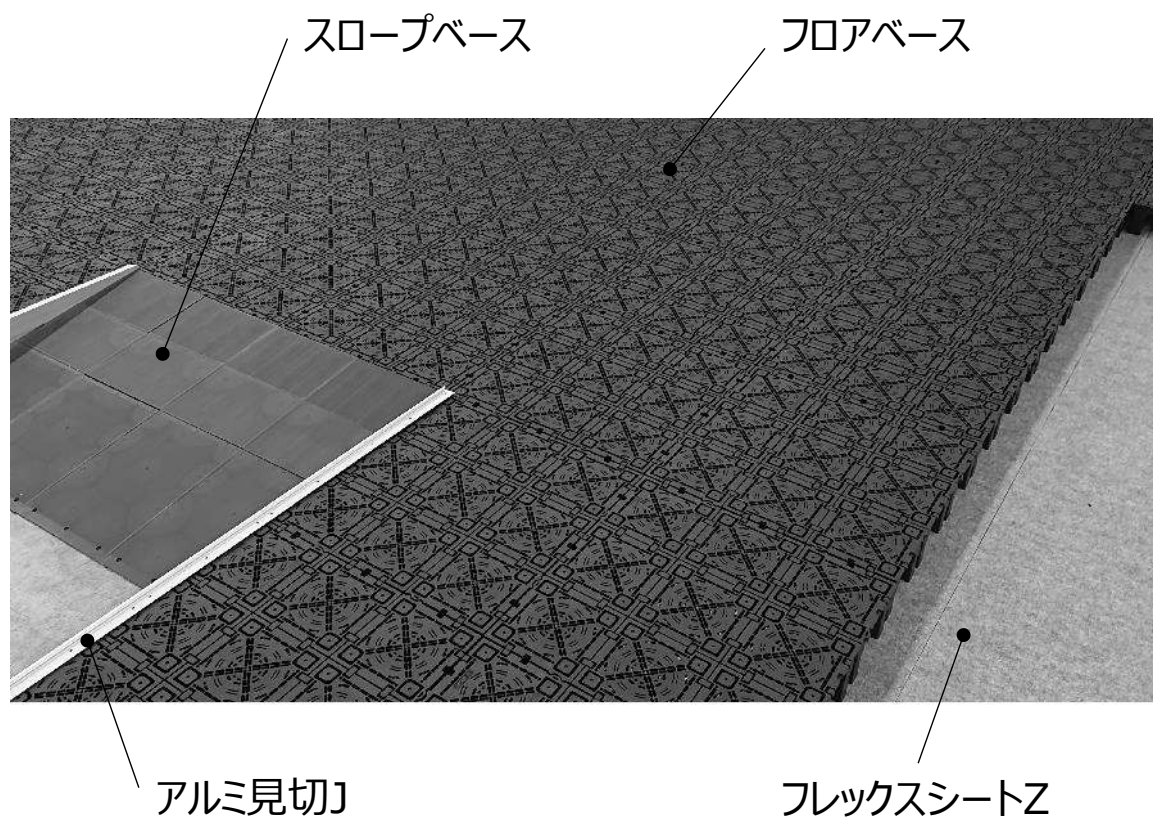
自主検査表……P12

1. クリーン OA フロア TN-100 の構成と仕様

1-1 部材構成

クリーン OA フロア TN-100 は、フレックスシート Z を敷設後、フロアベースを敷き並べる置敷タイプの OA フロアです。また出入口用の部材として、框の役割をするアルミ見切 J、台車などの走行をスムーズにするスロープベースを取り揃えています。

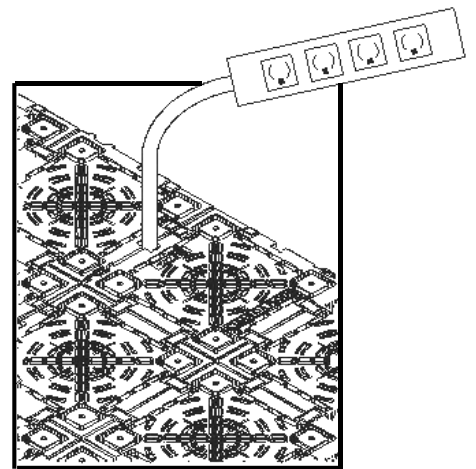
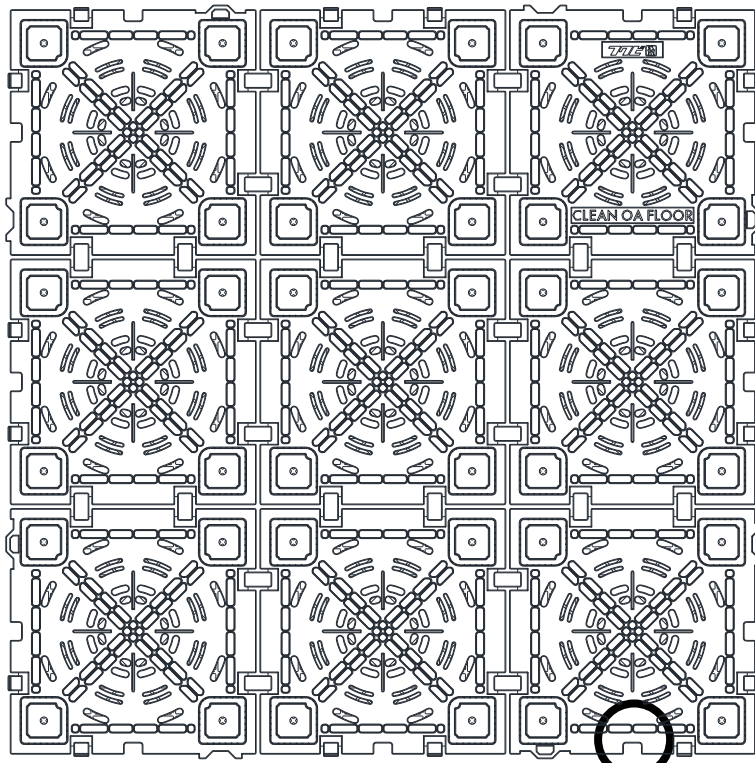
○部材構成



1. クリーン OA フロア TN-100 の構成と仕様

1-2 配線の取り出し方法

電話線・LAN ケーブル・OA タップの取り出し方法は、以下の図のようにパネル 1 枚に対し配線取り出し口が 12ヶ所ありますので、その部位から通線します。

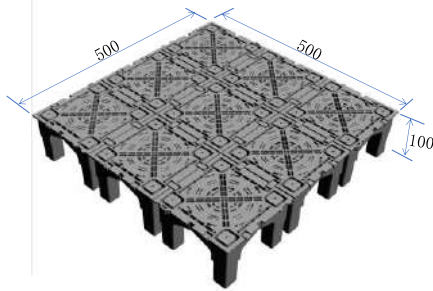


配線取り出し口（側面12ヶ所）

2.材料

2-1 部材

TN-100 フロアベース



- 材質:再生ポリプロピレン
- 寸法:500×500×100mm
- 梱包:4枚(1㎡分)/ケース

スペアスタンド 100S



- 材質:ポリプロピレン
- 梱包:100個/ケース

フレックスシートZ



- 材質:ポリエステル系不織布
- 寸法:2.0mm×1,000mm×20m 巻
- 梱包:1本/ケース

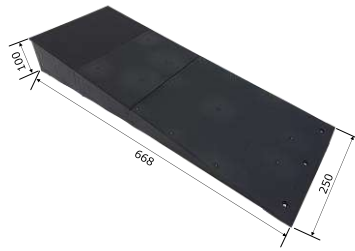
2-2 オプション部材

アルミ見切 J 床高 100 用



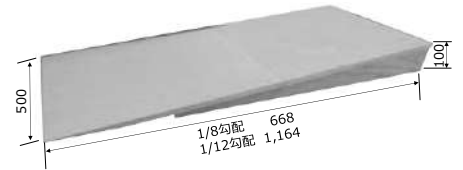
- 材質:アルミ
- 寸法:2m
- 梱包:2本/ケース

スローベース 100



- 材質:ポリプロピレン
- 寸法:100(T)×250(W)×668mm(L)
- 梱包:4個/ケース

OAフロアスロープ



- 材質:木
- 寸法:1/8 勾配 100×500×776mm
- 1/12 勾配 100×500×1,164mm
- 梱包:2個/ケース

クリーン OA フロア用
スプレー接着剤



- 材質:ラテックス系
- 容量:430ml
- 梱包:6本/ケース
- 目安量:30㎡/本

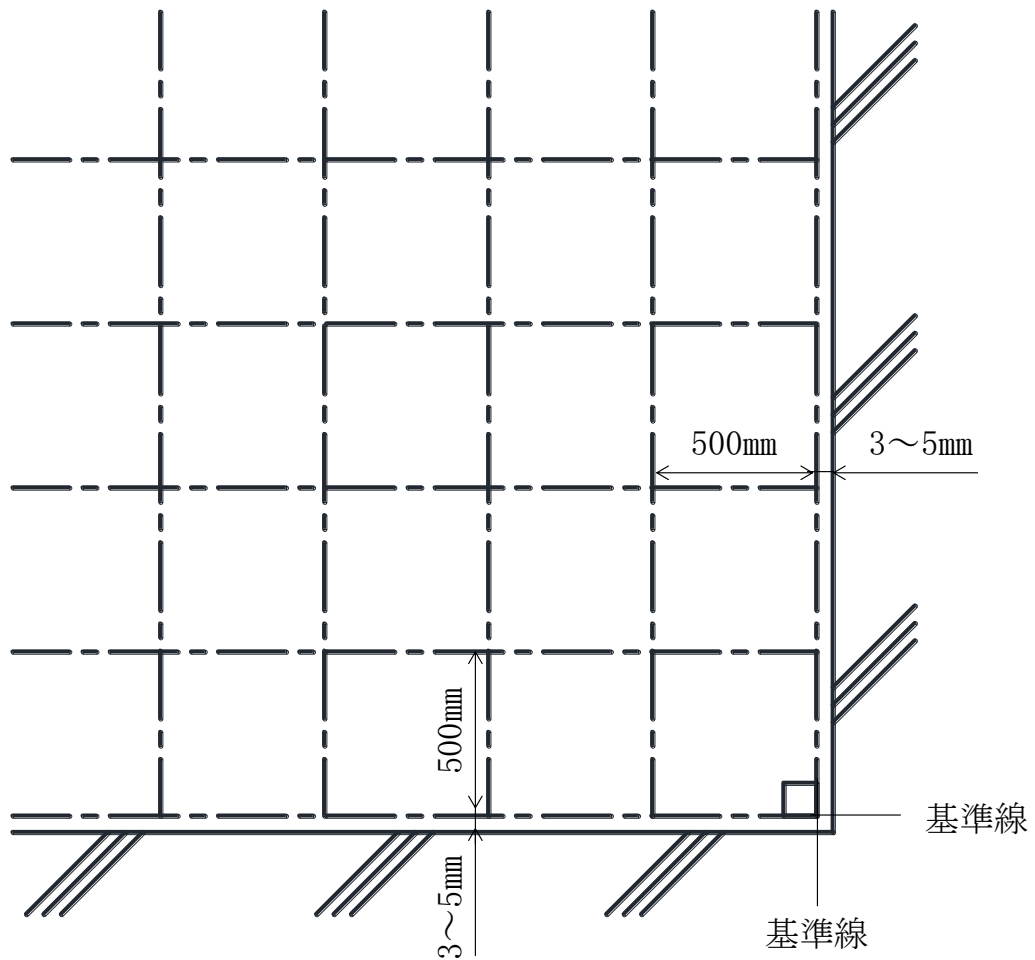
3. 施工手順

3-1 施工前の準備と確認

- コンクリート床下地の場合、下地面はタイルカーペット直張り仕上げとする場合と同程度に仕上がっていることを確認してください。(モルタル金ゴテ仕上げ 3/1000 mm以内を目安としてください。)
- コンクリート面を清掃し、極端な凸凹がある場合は修正を依頼してください。
- 直射日光が当たる場所やストーブ前での長時間の放置は避けてください。パネルが変形するおそれがあります。

3-2 割り付け

- 下図のように壁面から3～5 mmの位置を基準線とし、割り付けを行います。
- あらかじめ仕上げ材の割り付けがきまっている場合は、フロアベースの目地と仕上げ材の目地が100 mm程度ずれるよう、フロアベースの割付基準線を調整してください。



3. 施工手順

3-3 フレックスシート Z の敷設

3-3-1 クリーン OA フロア用スプレー接着剤を使用して敷設を行う場合

- 床下地にクリーン OA フロア用スプレー接着剤を散布しながら、フレックスシート Z をフロアベース施工部分全面に敷設してください。シートの切断は、カッターやはさみ等を使用してください。
※シートにフクレ、シワ等がないこと及びシート同士が重なっていないことを確認してください。



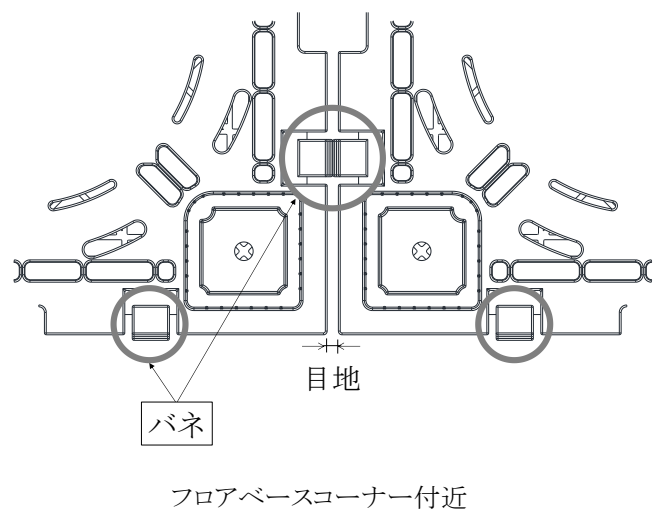
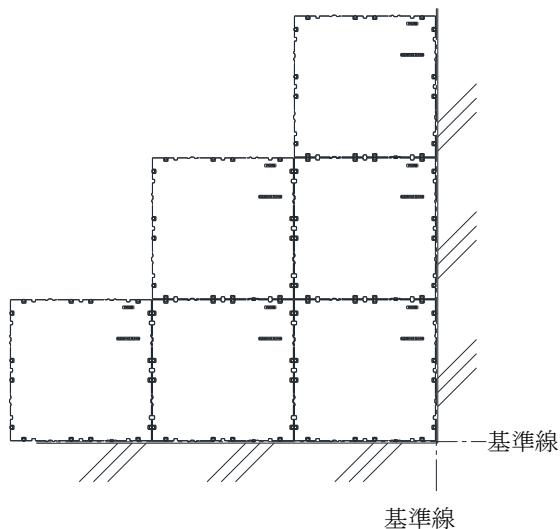
3-3-2 市販の片面粘着テープを使用して敷設を行う場合

- フレックスシート Z をフロアベース施工部分全面に敷設し、ズレ防止のため、シートを突きつけたジョイント部分を市販の幅 50 mm 程度の片面粘着テープ (現場調達) で押さえてください。シートの切断は、カッターやはさみ等を使用してください。
※シートにフクレ、シワ等がないこと及びシート同士が重なっていないことを確認してください。



3-4 フロアベースの敷設

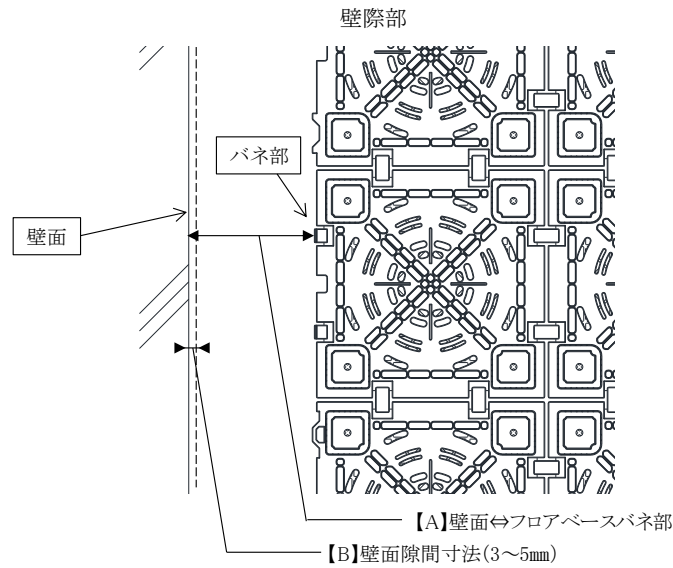
- 基準線に合わせてフロアベースを敷きます。
※フロアベースコーナー付近にあるバネ部を軽く当てて目地を出しながら、敷設を行ってください。



3. 施工手順

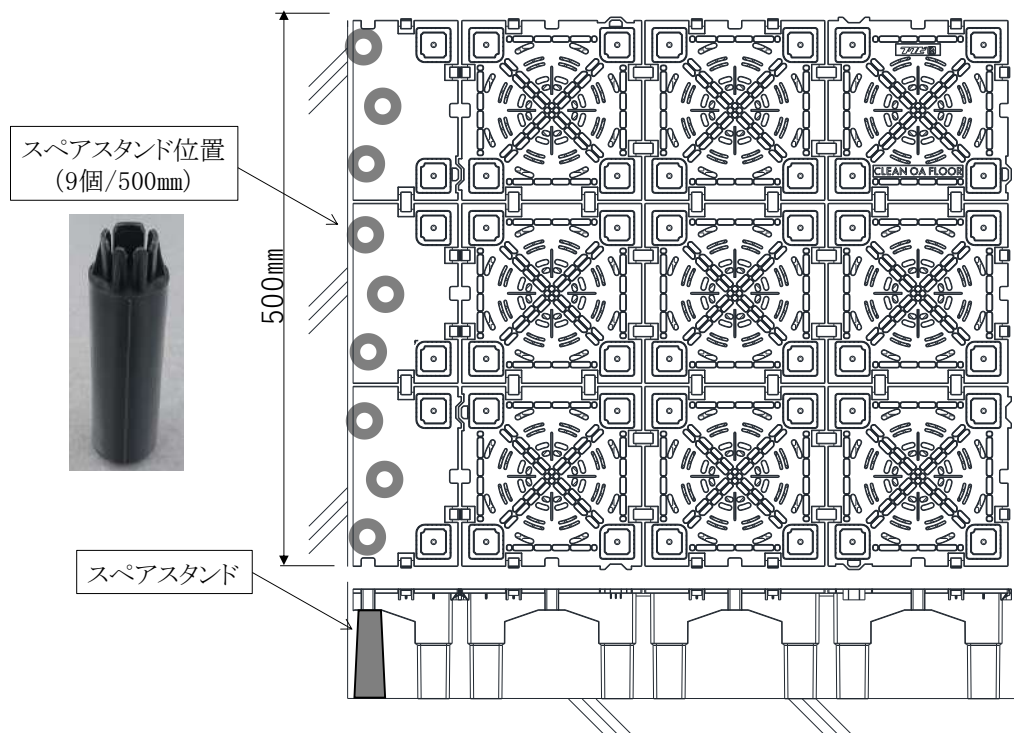
3-5 壁際部フロアベースの切断加工

○壁面からフロアベースバネ部の寸法【A】を測定し、壁際隙間寸法 3～5 mm【B】を見込み、切断加工寸法【A-B】を決定し、丸ノコなどでフロアベースの切断加工を行ってください。

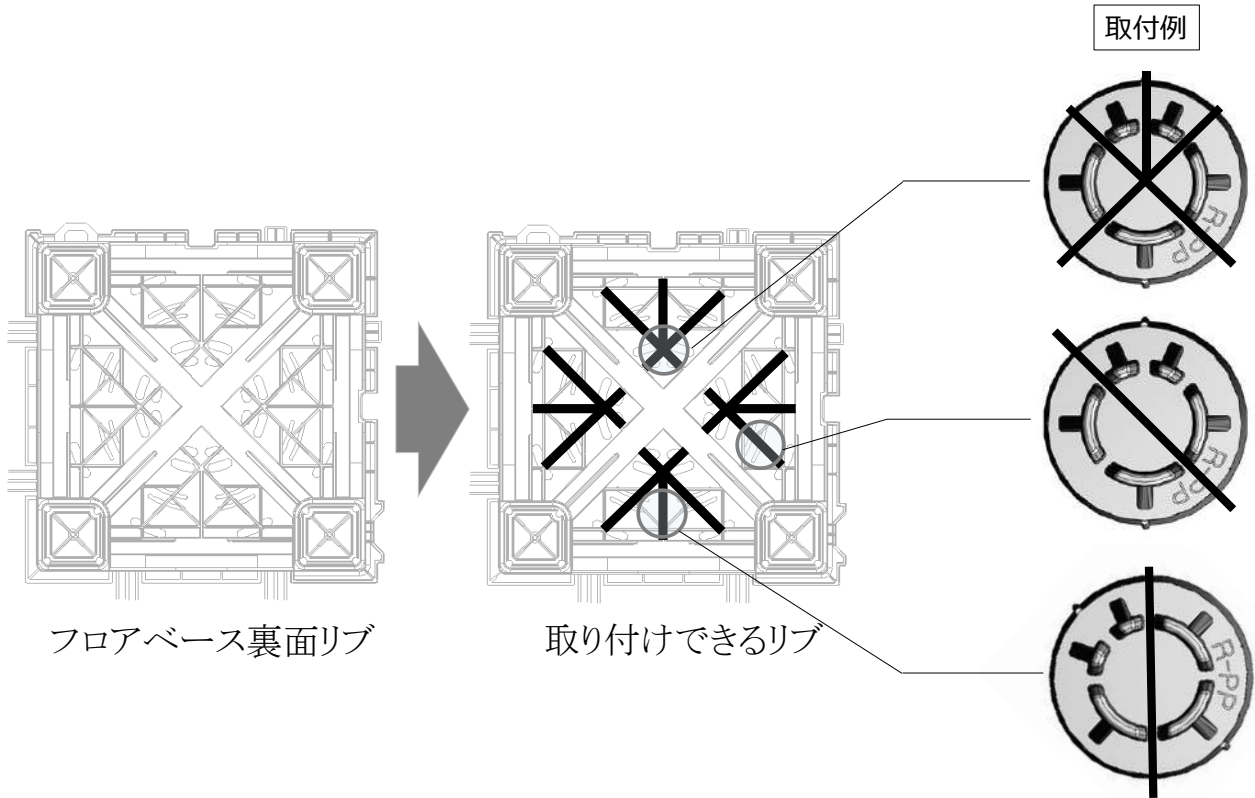


3-6 壁際部フロアベースの敷設

○切断加工を行ったフロアベース裏面のリブに、補強支持脚としてスペアスタンド 100S を差し込み(フロアベース長さ 500 mm に対し9個取り付け)、フロアベースの敷設を行ってください。



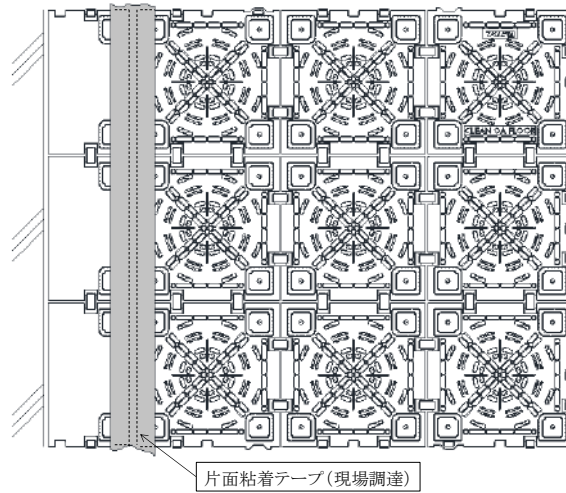
○スペアスタンドを取り付けることができるリブは、下図の太線部分になります。



3. 施工手順

3-7 フロアベースのがたつき防止対策

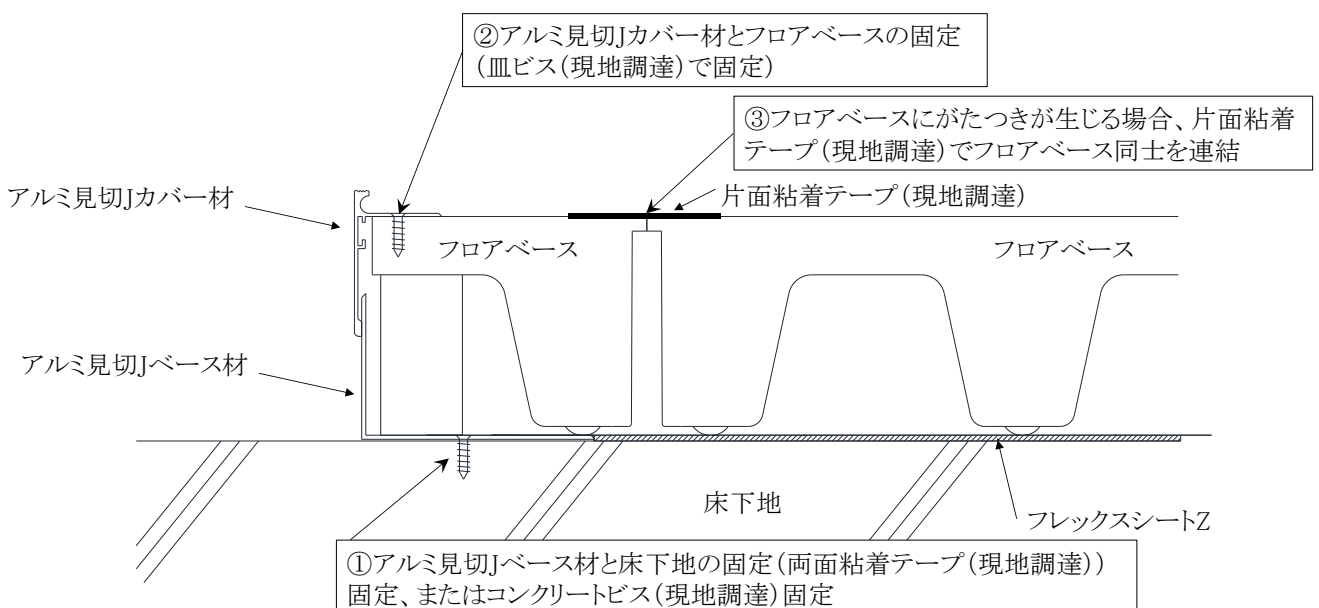
○フロアベースにがたつきが生じる場合、幅 50 mm 程度の片面粘着テープ（現場調達）を、連結するフロアベースの天面部分に貼り、がたつきを抑えてください。



3-8 アルミ見切の取り付け

※アルミ見切J床高 100 用を使用します。

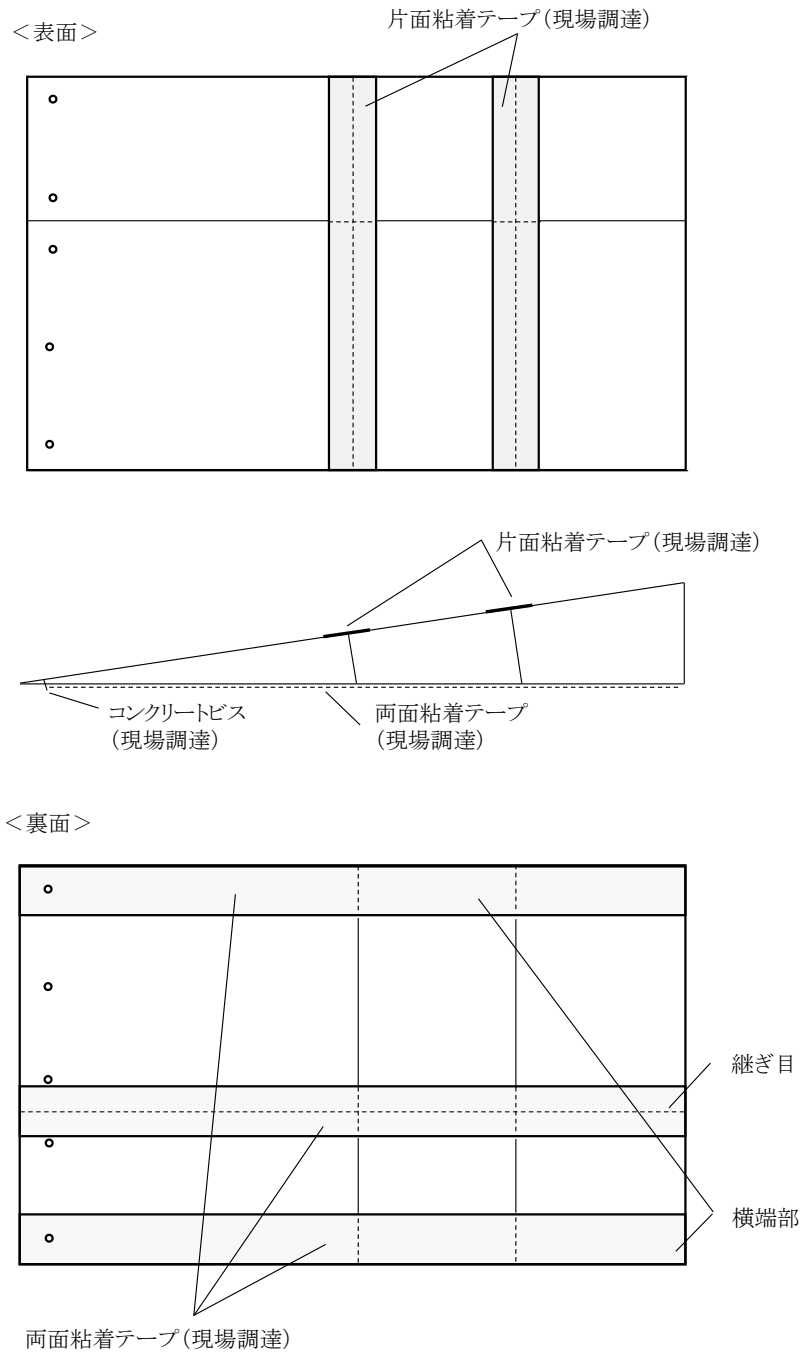
- ①アルミ見切ベース材を所定の長さに切断し、アルミ見切Jと床下地を両面粘着テープ又はコンクリートビス(ビスピッチ 500 mm程度)で固定します。
- ②アルミ見切カバー材とフロアベースを皿ビス(φ3×15 程度(皿頭径: φ6))で固定します。(長さ 500 mmのフロアベースに対し、4ヶ所固定)
- ③フロアベースにがたつきが生じる場合、片面粘着テープでフロアベース同士を連結し、がたつきを抑えてください。



3. 施工手順

3-9 スロープベースの取り付け

- ①スロープ設置部分にスロープベースを並べ、必要に応じ切断加工を行います。
- ②スロープベース裏面の横端部と継ぎ目に両面粘着テープ(現場調達)を圧着して貼り付けます。
- ③スロープベース裏面を床下地に圧着して貼り付けます。
- ④スロープベース先端をコンクリートビス(現場調達)で固定します。
- ⑤がたつき防止の為、スロープベース表面の継ぎ目に片面粘着テープ(現場調達)を圧着して貼り付けます。



3-10 自主検査

○施工完了後、自主検査表をもとに検査を行います。自主検査表は P12に記載しています。

3-11 仕上げ材の施工

○タイルカーペット、OA フロア用タイル等仕上げ材は、フロアベースの目地部分をまたぐようにフロアベースの端から概ね 100 mm 以上ずらしてピールアップ接着剤で施工してください。

4. 重量機器の搬入要領

設備機器などの重量物を移動するとき、その自重以上の荷重が床パネルにかかり、パネルに凹みが生じたり、破損することになりますので下記事項にご留意下さい。

- ・300 kg を超える重量物を移動する場合は、あらかじめ合板などを敷いて、フロアベースの一部に荷重が集中しないようにして下さい。
- ・重量物を設置する場合には、床パネルに衝撃を与えないように静かに設置して下さい。設置面の面積が小さいと床パネルに集中的な荷重がかかり、変形や破損をする恐れがありますので、合板などを敷いて補強して下さい。

自主検査表

年 月 日

様

工事名: _____

検査日時: _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査者氏名: _____

下記の自主検査を行いましたのでご報告します。

項目	検査要領	品質目標		自主検査結果
パネルの面高さ(※1)	目視で判断し、必要のある箇所を水平器・水糸などで測定する。	歩行に支障のないこと。		
パネル間の段差	目視で判断し、必要のある箇所を直定規・隙間ゲージなどで測定する。	I (※2)	0.6mm 以下	
		II (※2)	1.0mm 以下	
		III (※2)	2.0mm 以下	
パネルの目地の通り	目視による。	支障のないこと。		
がたつき	歩行による。	支障のないこと。		
外観	目視による。	有害な破損や汚れのないこと。		
開閉性	開閉による。	開閉・復元が容易なこと。		
汚れ	目視による。	著しい汚れのないこと。		

※1: ドア枠、ファンコイル、ボーダーコンクリート、架台のレベルに差があり床仕上げレベルを合わせる必要がある場合は除く。

※2: I はビニル床タイルなどのパネル直貼りによる仕上げ、II はタイルカーペットのパネル直貼り仕上げ及びビニル床タイル目地ずらし貼り仕上げ、III はタイルカーペットの目地ずらし貼り仕上げに適用する。

○上記項目、検査要領、目標品質はフリーアクセスフロア工業会の一般事務室における推奨値。

(フリーアクセスフロアの性能評価 2015.10(フリーアクセスフロア工業会規格)より引用)